

令和4年度 学校評価書 (自己評価と学校関係者評価の結果と考察)

東近江市立能登川北小学校

令和 5年 3月10日作成

<本年度の重点目標>

- 学ぶ力を高める 進んで学び、よく考える子の育成
- 豊かな人間性の涵養 心やさしく、助け合う子の育成
- 健やかな心身の育成 粘り強く、鍛える子の育成
- 信頼される学校づくり 地域と共に歩む学校の創造

<評価基準>

- A＝優れている(優れている状況にある ・ 数値基準90%以上)
- B＝良い(良い状況にある ・ 数値基準80%以上)
- C＝おおむね満足(課題はあるがおおむね満足できる状況にある ・ 数値基準70%以上)
- D＝要改善(課題が多く速やかな改善が必要な状況にある ・ 数値基準70%未満)

<自己評価の総評>

総合評価【B】

○学級通信を定期的に発行し、子どもたちの学校での様子を保護者に知らせることができた。また、学校での子どもたちの様子で特に全体で気になるところがあれば、通信や週予定などで知らせ、子どもたちにも保護者にも周知することができた。

○子どもたちの言語活動を充実させるために、国語の時間などに言葉遊びを取り入れたり、みんなの前で話す機会をたくさん設けたりした。少しずつ話す力はついてきているが、全員が「相手に聞こえる声の大きさに」「相手の顔を見て」言えるようにこれからも言語活動をどんどん取り入れていきたいと思う。

○小学校生活の見通しとして、1日の流れや授業の流れを示すようにした。1学期に比べ、落ち着いた環境の中で生活ができていくように思う。

○学習に向かいにくい雰囲気のある学級に入り、学習のポイントを押さえたり、めあてを明確化したりすることで、学習に向かう気持ちを育てている。

○課題の多い学級に入り、不適切な言動について振り返って考えさせたり、善い行いをしている児童を見つけてほめたりすることで、児童の自己肯定感を高めている。

○くりみっこマラソンで100周達成した児童の表彰に立ち会い、粘り強く取り組んだことを賞賛している。

○保護者対応や電話対応で、気持ちよく対応することを心がけ、保護者や地域からの信頼を得られるよう意識している。地域の方からのご協力に対して、丁寧にお礼を伝えるようにしている。

○子どもたちが安心して学校生活が送れるように、子どもの思いを聞いたり、話し合いをしたりして納得できるようにした。

○子どもたちの学力の定着のために、自分の考えを友だちに伝えたり、教え合ったりするながで学びが深まるような授業展開をした。

○学ぼうとする姿があるし、環境も整えられているが、考えられる子の姿としては、満足してはいけないう。

○豊かな人間性はあるが、固定化され少数であることの弊害が起きないように学校にの教師たちの考えを柔らかくしておかないといけないと思う。変化を良しとすることができるように、多種多様な設定の工夫が必要なことだと思います。

○家庭との連携をもっととりながら、と思うことがしばしばあったが、躊躇していることがある。より良い方向へと子ども自身が伸びられるように更に連携をしていくと感じている。

○HPをはじめ、様々な場で、学校の情報を発信することで、保護者や地域の方とのつながりがしっかりとできていくと思う。

○子どもたちの学びで、どこを考えるのか、どう指導するのかについてなど、質問をすればほかの先生から答えてもらえるので、教員同士のつながりがある。

○子どもたちのよりよいものを求める意欲的な姿はどうか維持できているように思う。

○優しい子どもたちだが、よくわからず失礼が言葉を使う場面があるところを改めていく必要がある。

○長い欠席を要する児童が何人か出たが、お陰で家庭との接点が大きくなったように思う。

○子どもたちの前向きな姿勢に助けられ、学級経営については比較的上手く機能していると思う。現状に満足せず、子どもたちについて学ぶ力を生かして、次のステップへと段階的に場を設定することで子どもたちの成長を支援したい。

○ICTを活用した学級、学校運営について、更なるアイデアを生み出したい。県や市の動向を待つのではなく、先を見越して実践していきたい。

総合評価【B】

○小規模校であるがゆえに、先生方も子どもたちもお互い顔も性格もわかっている利点を生かし、一人一人の子どもをよく見て理解しようとしている。力をつけていくための手立てに取り組んでいる。

○たてわりでの活動機会を通して、異学年での活動や交流などの取組がうまく行われていると感じる。上学年は上学年としての自覚や自信をもち、下学年はその姿を見てみ習ったり目標としたりできる取り組みを、今後もさらに充実させていってほしい。

○ホームページや様々な通信、たよりで情報を保護者に発信し、信頼を得ている。地域の人材も活用し、つながりも深くなってきている。コミュニティスクールに向け、さらに地域全体を巻き込んだ取り組みを考えていく必要がある。

○高学年になるほど、自分で考え、自分から発言、行動しようとする力がついてきていると思う。今後の学校や社会で集団が大きくなった時でも、その力が発揮できるようさらに育てていってほしい。

○北小ならではの取組も多く、地域と連携した活動ができていく。

○保護者との連携、情報交換、交流をより密にしてほしい。何でも相談できる環境づくりを進めていってほしい。

○保護者や地域の声を反映した学校運営をさらに進めていってほしい。

○児童が北小が好きと言える学校生活を送ることができ、安心して学習できていると思う。次のステップへ進むためにも小学校の6年間で、自信をつけ、自信をもって何事にも立ち向かっていける強い心を身につけていってほしいと思う。

○保護者とのコミュニケーションが取れている。図書などの整備元と、児童にとって過ごしやすいう学校である。

項	評価項目	成果目標・取組指標	学校評価	自校の改善方策	学校関係者評価委員会の意見	学校関係者評価
(1) 学校経営	① 学校目標	・学校だより、ホームページ、関係団体会議等で積極的に発信する。 ・学校やPTAからの北小の合言葉「くりみのこ」について知っている保護者を80%以上にする。	B+	・6年生をモデルとしたたてわり活動が定着しつつあるので、それぞれの発達段階に合わせて、たてわり活動への意識を高めていく段階にきていると思う。 ・くりみのこは子どもへも保護者へもずいぶん浸透していると感じる。非認知能力の育成を狙っている点をさらに発信し続けていきたい。 ・各学年担任がそれぞれの思いでカリキュラムを組むのではなく、学校目標を軸にした学校ベースのカリキュラムを構成する必要がある。また、そのようなカリキュラムを作成できるように、職員への研修をする必要がある。	○学級ベースのカリキュラムについては、前年度でも見通しの必要が出ていたと思うので、学びが広がっていきカリキュラムの再考を進めてほしい。職員室前のカリキュラム掲示は素晴らしいと思っていっている。 ○たてわり活動という北小ならではの取組で子どもたちの考える力を伸ばしてもらっている。 ○小学校6年間を通して、次のステップのために自分自身、自信をもって進んでいけるようになった	A
	② 社会に出て、自らよりよく生きていける力の育成	・小学校6年間を見通したカリキュラムを構築する。 ・年間を通して、たてわり活動の充実を図る。	B			
(2) 学習指導	③ 学力向上の取組	・児童一人一人が考えをもち、伝え合い学び合える授業の工夫・改善に努め、授業が分かるという児童を90%以上にする。 ・日々の学習と家庭学習を連動させる意識をもって指導に当たり、「子どもが自ら進んで家庭学習に取り組んでいる」と答える保護者の割合を80%以上にする。 ・子どもが主体的に学ぶ姿勢を大切に、ノートづくりやめあてを意識したふり返りを通して、子どもたち自身が学びを実感できるような授業づくりに取り組む。	B+	・学級の中で、ノートづくりの見本を改めて紹介すると、見やすい・分かりやすいノートの再認識ができる。 ・週に1回図書室を利用している。毎週学校司書による読み聞かせを子どもたちは楽しみにしており、紹介してもらった本からいろんな本に興味を持ち、楽しく読書をしている様子が見られた。家読の取り組みを2学期から始めたが、取り組みには差があるのが現状である。保護者に負担にならないように取り組みの仕方を吟味することも必要である。 ・指導力の差が顕著に表れてきている。校内研で学んだことを日々の授業に生かす意識を高める必要がある。小さな学校だからこそ、交換授業等を積極的に行い、学校全体の指導力を高めていかなければならない。 ・全学年で統一して指導するべきことが曖昧になってしまっている。再度、全職員で確認し、足並みをそろえた指導を実践することが大切だと思う。 ・外国語主任を中心として、ALTとの意思疎通を図る。 ・朝の会、帰りの会を学級づくりの大切な時間として、きちんと意識づける。 ・家庭学習の取り組みについては、保護者アンケートの結果から推察すると満足されていないし、こどもたちの家庭学習のイメージがどんなものかを知る必要があると思う。どの部分を見て満足されるのか。 ・ヘル着は少しルーズな感じがある。(ヘル着の推奨が必要か、ランダムな鳴り方なので)学習準備は整っていない。 ・掃除の始まりと終わりも少し振り返りがいい加減なところが見えている。担当場所の掃除が早く終わったら、作業の止まっていることがある。時間一杯させたところだ。基本的には、真面目だが熱心さはない。勤労意欲という点では、乏しく思っている。教師の実践する姿を見せることが大切だと思います。巡回だけにとどまらない。 ・図書館の利用については、好ましい状況で、授業の合間にも読みかけの本があるのは素晴らしいと思う。 ・タブレットPCは、有効な学習ツールとなっているが、子どもの創造性を育むための時間を奪う道具にならないようにしていかなければならない。 ・毎日の宿題の一つに「学習時間が70分以上になるように、自主学・読書を加える」という項目を入れているものの、1学期はアンケートの結果が思わしくなかった。しかし、アンケートの問い方を「子どもが自ら進んで家庭学習に取り組んでいる」というものに変えた結果、2学期は保護者からの肯定的な回答が80%を超えた。アンケートの数値が全てではないが、対策を講じても結果が表れない時には、問い方を練り直してみるのも一つの手であると感じた。	○授業などを見て、北小は教え込む授業ではなく、なるほど、わかった、で北小つながる授業を細やかにしていると感じる。先生方の氷山の熱心な研究や取組に感謝している。 ○学びのスタンダードを身につけていくことは、学習へ向かうための意欲の向上や、集中を高めていく元となり、非認知能力の育成へも繋がっていると思う。掃除などもそうだが、子どもたちにやらされている感があるのだろうか。気持ちを高めていくために、あまり目立たないけれど、コツコツ地道に努力している気づかれないようなところで善行をしているなど、披露子どもたちの行動をこれからも受け止めていってほしい。 ○自分から学ぼうとする姿勢が見られ、そこに力を入れていることがわかる。指導の成果が表れている。 ○授業の質が良い。 ○自主学習、家庭学習の取組がやや抽象的である。目的、目標、内容を明確にしていくと取り組みやすいのではないかと。 ○タブレットの活用や英語のALTの活用など時代に合った授業は大切である。 ○学校で読書をするけれど、家ではあまりというのがまだまだあるようなので、これからは、家読のような取組があると、本と触れ合える時間をもてるのではないかと。 ○タブレット学習は、ツールになってきていると思う。時々、先生に言われたところと違う動画を見ていた児童がいたので、気を付けていかなければいけないと思う。	B
	④ 学習規律・学習集団づくり	・全学年一貫した指導「学びのスタンダード」を徹底する。(学習準備、ヘル着、学習のあいさつ、声のものさし、話し方、聴き方、鉛筆の持ち方等) ・授業中、教師や友達の話をしっかりと聞く児童の割合を90%以上にする。	B			
	⑤ 学校図書館の活用・読書習慣の定着	朝の読書、読み聞かせ、図書室利用指導等により、読書が好きと答える児童の割合を80%以上にする。 ・図書だよりなどにより親子読書を呼びかける。 ・すきまの時間に読書ができるように児童の身近に(図書バッグなど)読書する本を常備させる。	B+			
	⑥ 英語教育(外国語活動)の充実	・担任が外国人講師等との連携を図り、コミュニケーション能力の育成をめざした授業を行う。 ・「英語の授業が好き」「英語の授業が楽しい」という児童を90%以上にする。	B			
	⑦ コミュニケーション能力の育成	・学習活動や朝・帰りの会で児童相互に伝え合う場面を設定し、話す力・聴く力の向上に努める。 ・授業中、積極的に自分の考えを話している児童の割合を80%以上にする。	B			

(3) 道徳教育	⑧ 道徳教育の充実	・考え、議論する道徳科の授業を充実し、年間1回以上保護者に道徳の授業を公開する。	B	・「あいさつっていいな」と子どもたちが感じられるよう、道徳や生活場面の中で、声掛けをしていくようにする。 ・道徳の授業についても、指導力を向上させる取組が必要。 ・あいさつ運動を実施してきたのに、あいさつが少なく感じる。こちらからしてもかえってこない時もあるのが残念。地域でもできているのだろうか。 ・学年部で道徳の授業を見合えることが1回でもあると、学年部の児童の様子がより何えたり、その後の授業の相談ができるきっかけになるかもしれない。 ・「自分からあいさつする」は、本人がしたいと思う人にだけしていると感じる。、学年に応じてあいさつについて考える場を、毎年必ず設定していく。	○あいさつを学校だけでなく、地域でもすることが少ない。 ○あいさつに関しては、地域でもつながりが少ないことが要因としてあるのではないかと感じる。TPOに応じたあいさつ、限度をわきまえた振る舞いを学んでほしい。 ○あいさつすることでどんな良い面があるのか体験する機会を設けてほしい。 ○思いやりをもって行動することが自分の学校生活に生きてくることを伝えてほしい。	B
	⑨ あいさつの充実	・家の人や近所の人、友達などに自分からあいさつできる児童の割合を80%以上にする。	C			
(4) 特別活動	⑩ 豊かな心情を養う体験活動の充実	・学校行事や縦割り活動の精選と質の向上を図る。 ・月1回以上学級会を行い、自分の思いを伝え、よさを生かしていけるようにする。	B+	・自分の思いを発表できる場を学級会やその他の授業の中で設定するようにする。 ・学級会も十分とは言えないところがあるので、参観し合うなどして指導力を高める必要がある。 ・4年生以上は、代表委員会もあり、充実している。委員会やクラブも、子どもたちから自主的に動いているのがよい。 ・代表委員会やたてわり活動は、予め年間計画に入れておき、担当者や児童の負担過多にならないようにする。 ・たてわり掃除の計画・次の場所への引継ぎについて明らかにしておく。 ・委員会活動は特色ある内容が表れてきたが、できるだけ児童の力で進められるように計画していく。 ・異年齢との交流は、いろいろな学年と行えるように工夫をしていく。	○たてわり活動が充実している。高学年の姿にあこがれるというのが、北小らしい。 ○クラブが自主的に運営されているのがよい。子どもたちが生き生き活動している姿が見られる。 ○他学年と交流することで、ほかの考え、多様性を感じてもらえたのではないかと感じる。 ○たてわり活動、異学年との交流は児童にとっても良い刺激となっていると思うので、これからも続けてほしい。	B
	⑪ 勤労や奉仕の精神を培う生活指導の充実	・自分から進んで、時間いっぱい掃除ができる児童の割合を80%以上にする。 ・係活動、委員会活動に進んで取り組む児童の割合を80%以上にする。	B+	・自分自身が自身を認めてあげられないと他者を認められないので、その子自身が自分が好きになれるよう、自分のよさを自分で挙げたり、友だちに教えてもらったことも大切だと思った。 ・学級通信で人権週間での取り組みの様子を知らせた。子どもたちが普段から人権意識をもって生活できるようにお家の方への啓発は大切であると思う。 ・指導者自身の人権感覚を磨き、日常でアンテナを高くして過ごすよう心掛けたい。 ・互いの人権を守る環境は安定しているが、固定化された人間関係の良さ悪さが、子どもたちの心身に影響があると思うので、緊張が見守る教師の柔軟な見守りが必然だと思っています。 ・帰りの会のキラリで、してもらったことだけでなく、これからどうしていくか意見するのよきことだと思ふ。平穏な中にも、気になる言動を見逃すことなく、アンテナを立てていきたい。 ・各学年の人権宣言は、学級開きを受けて1学期末あたりに方向性を掲げ、1年を通じた取組を12月に報告するようなイメージをもちたい。また、人権意識を高める学びは、実態も含めて学年通信などで保護者へも発信する。		
	⑫ 豊かな人間関係を培う、交流活動の充実	・異年齢の集団との交流活動を意図的・計画的に実施する。	B+			
(5) 人権教育	⑬ 人権尊重の精神と実践的態度の育成	・年間指導計画に基づき指導を進め、学校生活が楽しい児童の割合を90%以上にする。(いじめ防止) ・友達のよさを認め合う場を設定し、掲示するなど可視化を図る。(「今日のキラリ」「ほめ言葉シャワー」などの取組、ノートの書き方賞賛の掲示など) ・教室に掲示する児童の作品には、指導者のコメントを入れ、自己肯定感の高揚を図る。	B	○思いやりをもって生活することで、学校全体が生き生きとして来ると感じた。 ○みんながつながっていることを伝えてほしい。 ○学校が楽しいと思っている児童がほぼ9割を超えているけれど、全員ではないので、「みんなちがってみんないい」という思いで学校生活を過ごすことができたらいいなと思う。	B	
	⑭ 保護者・地域と連携した人権教育の実践	・人権にかかわる取組について、学年だよりなどで紹介し、保護者への啓発を行う。 ・日常的に、人権に対する意識を高める指導を継続的に行う。 ・人権週間で、全校的な取り組みを通して、人権意識を高める。	B			
(6) 環境教育	⑮ 共生を目指す環境教育の充実	・SDG'sの17項目の視点を意識した活動を仕組む。	C	・SDG'sとは何か?考えられる場面や授業等を設定し、指導するようにする。 ・子どもたちから発信していく授業構成になっていて、発表がたくさん聞けるのがよい。 ・SDG'sの枠に学習した単元を落とし込む作業をする結びつきが明確になってくるかもしれない。(児童にやらせてもよい)	○SDG'sは、まだまだよくわからないところがあるので、これからの学習だと思ふ。	B
(7) 国際理解教育	⑯ 多文化社会に生きる国際理解教育の推進	・ALTによる、母国の文化を紹介しながら、文化の違いや多様性を理解させる。	B	・ALTの母国の文化、知っていることについても授業の中に、取り入れていくようにする。 ・ALTが替わることにではあるが、出身地や個人のこと等教えてもらえて、子どもたちも親しみがもててよい。 ・外国語の年間の計画に、異文化を学ぶ時間もプラスして入れておくとよい。	○多文化への興味・関心を他かえる工夫が多様性への理解につながるのではないかと感じる。 ○外国語学習は、どの学年も楽しく学習していると思う。	B
(8) 生徒指導	⑰ いじめを許さない集団づくり	・学習規律の確立や豊かな人間関係を築く学級経営を進める。 ・「いじめはいけない。ゆるさない。」という学級風土を築く。 ・いじめをしない、させない、見過ごさない行動をとる児童の割合を90%以上にする。	B+	・気になる言動については、その時、教師が直ぐに判断し、指導や声掛けを行う。 ・いじめを許さない学級風土を築くためには、指導者の姿勢が大きく影響する。「いじめは許さない」という強い思いをもって、日々の指導に当たりたい。 ・教育相談週間などを通して、児童の気持ちを知るきっかけになってよかった。今後も定期的に続けていきたい。 ・小さな集団であることへの安易さに固定化されないように、常に新鮮な目で子どもの姿を見るように意識を高く持つようにしたい。固定化されている様子を感じる。 ・少人数の中、固定化した個人を見る目が、人間関係のこじれがあると長引いてします。相手を多面的にみられ、個性として認められることの大切さを話していきたい。 ・学級会や代表委員会など、児童の話し合いの場、「いじめ」を取り入れ、児童が考えた啓発や活動を始めていく。	○小集団から自己発揮しやすいが、お互いの見方が固定化されてしまうことにもなってしまうのは、子どもたちが住んでいる地域にも言えることかもしれない。学校では様々な人とのかわりや交流の場をさらに意識して加えてほしいと思う。 ○子ども同士の間隔もよいが、困ったときに発信したり、受け止めたりできる関係づくりを大切にしたい。 ○自分以外の考え方があっていい、それを認めていける感性を高めてほしい。 ○小さな集団であるために、人間関係が固定化してくるので、それぞれの個性を大切にできるようにしてほしいなと思う。	B
	⑱ 学校不応児童生徒へのきめ細かな対応	・教育相談週間「10分間カウンセリング」や児童・保護者アンケートから児童の心身の状況を把握し、意図的・計画的に教育相談活動を実施する。	B+			
(9) 進路指導	⑲ キャリア教育の充実	・学年の発達段階に応じ、自分のよさや夢を語ったり書いたりする場を設定し、自分のよさを発見し、将来に夢や希望をもって生きようとする意欲や態度を養う。(キャリアパスポートの実施)	B	・子ども自身が頑張りを取り返し、教師、友だちが認め、次のステージに行けるよう指導、声掛けを行っていく。 ・高学年の姿にあこがれる実態が何よりのキャリア教育になっている。 ・キャリア教育とからめられる場面は数多くあるものの、指導者サイドが意識できていないことにより、見過ごしてしまうことが何度かあった。「キャリア教育」単体で考えるのではなく、キャリア教育とからめられないかという視点を常に頭の片隅に置くようにしたい。 ・時間がなく、キャリアパスポートの活用が十分にできていなかった。もっと自分の良さ確認のためにも、活用を図りたい。 ・人との出会いが、今後の自分の生き方に変化をもたらすことが多い。迎えたゲストティーチャーの記録を残し、今後の学びにつなげる。	○高学年の姿にあこがれる、これが北小ならではと思う。高学年の子があこがれの存在になっているのは素晴らしいことだ。 ○自信になるものを身に付けて、中学校へ進んでほしい。 ○いろいろな人との出会いを大切にしたいと思う。	B
(10) 特別支援教育	⑳ 特別支援教育の充実	・全児童の「チェックリスト」を実施し、適切な指導・支援を検討し実践する。 ・必要に応じて支援体制づくりを行う。 ・学期1回以上の特支推進委員会を実施する。	B+	・子どもたちの困り感を教師が気づき、授業の中で困らないよう、言葉を選んだり、手立てを用意したりする。 ・一人ひとりの個性を大切にしながら、その子の生きづらさが少しでも前向きになれるよういろいろな機関を通してアドバイスをもらうなどした。 ・発達検査のフィードバックの結果が、有効に動いた事例があり、ありがたかった。 ・常に、支援計画・指導計画を見直し、適切な指導・支援を行ってほしい。 ・個別支援ファイルのある児童については、毎学期末に、支援の成果と課題を特別支援委員会で話し合い、今後の方向性を確認した上で保護者へ伝えていく。	○ドリームプロジェクトなど、ゲストティーチャーの活用など世界観を広げる活動をしているのは良い。 ○個々に応じた支援、少人数ならではのきめ細やかな対応が強みである。 ○一人一人に寄り添った指導・支援を大切にしたいと思う。	B
	㉑ 個別の教育支援計画の作成と活用	・個別の教育支援計画を活用する。 ・各学期および年度末に、支援計画・指導計画について保護者と懇談し、適切な支援・指導に当たれるようにする。	B+			
	㉒ 安全教育の充実と安全管理体制の整備	・月1回防犯パザールの点検を実施する。 ・児童のけが防止、危険回避のため、ヒヤリ・ハッとした体験を交流し危機意識を高める。児童にも示し、危険回避意識を高揚させる。	B	・朝ごはんを食べてきている子はほとんどだが、内容や量が気になる子どももいる。保護者に呼びかけを続けていきたい。 ・早寝をするとなぜよいのかということ子どもたちと話し合いながら、伝えてきた。 ・防犯パザールの点検だけでなく、いかのおすし一人前	○登下校の安全確保、先生の支援内容の明確化と子どもたちのルールの確認、子どもたちが責任感をもって動くと同時に、負担や責任を書けないような配慮をお願いしたい。	

(11) 保健 安全 教育	23 基本的な生活習慣の 確立	・「早寝、早起き、朝ごはん」を推進し、できる児童の割合を90%以上にする。	B	<p>のキーワードを紹介したり、自分のヒヤリハットな経験について伝えることで、安全意識が高まるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレから遠い教室ほど廊下を走る傾向があり、トイレ前で滑ってこける子も見られるので、注意するよう声をかけている。</li> <li>・どの学年も学習の中で安全についての内容を扱っているため、そこで日常生活と結びつけ、危機意識を高めていく。</li> <li>・児童が取り組んでいるメディアコントロールデーの様子や就寝時間などの生活リズムをクラス内で交流することで、基本的な生活習慣を見直す。</li> </ul>	○メディアコントロールデーの取組は、今後も続けていってほしいと思う。	B
(12) 研究・ 研修	24 教職員の資質・指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が主体的・対話的で深く学ぶ授業づくりに取り組む。(確かな学力・主体的に学ぶ力の育成)</li> <li>・常に学び続ける教師をめざす。(授業改善に向けた校内研究6回実施)</li> <li>・研究授業で学んだことを普段の授業に生かす。(日ごろの授業改善)</li> </ul>	B+	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の管理、日々の記録については、もっと意識を高めていく必要がある。</li> <li>・研究会も活発に運営され、講師の先生も継続して、関わってもらえていることで、繋がりも強くみんなで学びを深められていると感じる。</li> <li>・授業改善の難しさを改めて感じた。日々自分が行っている授業がどの次元にあり、どこにメスを入れるべきなのかが明確にならないと、なかなか変化が望めない。「教員はファシリテーターの役割」とは言うものの、「ティーチャー」が土台にあって初めてファシリテーターの役割が機能するものだと思うので、自分自身がしっかりと教えられる技能をもっておくことはやはり大切だと思う。</li> <li>・指導案、授業作り等大変勉強になった。また、打ち合わせや職員会議等で、伝達していただけたのもありがたい。</li> <li>・お互い研修してきた内容を年に1度は交流できるとよい。</li> </ul>	○先生が尊敬するに値する人間になることは大変だと思う。そうした信頼関係を得られるよう、日々の研修や指導をがんばってほしい。	B
	25 教職員の危機意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不祥事防止研修、人権教育研修、危機管理研修を計画的に実施する。</li> <li>・危機管理マニュアルの周知。</li> <li>・シェイクアウト訓練を6回以上実施し、危機意識の向上を図る。</li> </ul>	B+	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級通信・電話・家庭訪問等、子どもの思い、お家の方の思いや教師の思いを交流できるようにそれぞれの方法を使い分けて活用する。</li> <li>・剪定や除草、水やり、くみフェスタなど、地域の方々が協力的で本当にありがたい。ボランティアさんにお世話になっていることをもっとアピールし、教職員や児童が意識できるようにしていく必要がある。</li> <li>・保護者の願い、思いには耳を傾け、同じ目線で安心してもらえるように連絡を密にした。</li> <li>・家庭的にお忙しい中でも、協力的に取り組んでいただき、ありがたく思っている。</li> <li>・ボランティアや地域人材の活用視点で、保護者に積極的にお願いしていくことで、学校理解や地域理解に結びつくだろう。</li> </ul>	○子どもたちの心の支え、何があっても先生がいてくれるという安心感が伸び伸びとした自主的な活動につながっていると思う。児童が深く学ぶ授業づくりなど、先生方の努力にはとてもありがたいことだと思う。	
(13) 地域との 連携	26 保護者・地域との 連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への適切な対応、支援・助言に努め「学校の先生には、子どものことについて気軽に相談できる」と回答する保護者の割合を80%以上にする。</li> <li>・全学年で地域人材、資源を活用した授業を3回以上意図的・計画的に実施し、郷土愛を育む。</li> <li>・ふるさと「くみり」が好きと答える児童の割合を90%以上にする。</li> </ul>	B+	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級通信・電話・家庭訪問等、子どもの思い、お家の方の思いや教師の思いを交流できるようにそれぞれの方法を使い分けて活用する。</li> <li>・剪定や除草、水やり、くみフェスタなど、地域の方々が協力的で本当にありがたい。ボランティアさんにお世話になっていることをもっとアピールし、教職員や児童が意識できるようにしていく必要がある。</li> <li>・保護者の願い、思いには耳を傾け、同じ目線で安心してもらえるように連絡を密にした。</li> <li>・家庭的にお忙しい中でも、協力的に取り組んでいただき、ありがたく思っている。</li> <li>・ボランティアや地域人材の活用視点で、保護者に積極的にお願いしていくことで、学校理解や地域理解に結びつくだろう。</li> </ul>	○情報発信をいろいろしてもらえている。	A
	27 ホームページによる 情報発信	・ホームページの更新を2日に1回以上行い、学校の地域への情報発信源とする。	B+	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者からの発信を受け止めてもらえる機会を設けてもらいたい。(地区別懇談会など)</li> <li>○学校と地域の連携がしっかりとできていると思う。</li> </ul>		
(14) 施設・ 設備	28 施設・整備の安全 確保	・月1回以上の安全点検の実施による、施設の安全確保の励行。	B+	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段から学校設備の変化に意識するよう心掛ける。</li> <li>・校舎が古いのは仕方がないが、教室の鍵が閉まらなかつたり、雨漏り(壁から雨が漏れる)があったり気になるところがたくさんある。私自身も子どもたちも物は大切に使うことを伝えていくことも大切である。</li> <li>・活動したものを広げておけるスペースがない。大規模改修の期待ができないとしても、あと1部屋欲しい。また、今年度、骨折して松葉づえや車いすを使う子が何人も出たが、エレベーターやスロープがないのは具合が悪い。</li> <li>・学期末か長期休業中に教材室や特別教室の整理整頓をすることで、整備や活用につながる。</li> <li>・市教委予算による防水工事等がすすみ、施設の改修が少し進んだ。引き続き要望を続けていきたい。</li> </ul>	○図書館の更なる充実を図ってほしい。	B
	29 学習環境の整備	・学習活動の充実に向け、空き教室や特別教室を有効に活用する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちは、どんな時が楽しい時か考えたり、子どもたちの様子を見たりして、教師が気付けるよう心掛ける。</li> <li>・「学校が楽しい」となるように子どもの話は目をみて聞く。</li> <li>・小規模校ながら、不登校児もいることをしっかりと受け止めて、児童一人一人に目を向けて北小の特徴のある活動を仕掛けていくように、もっともっとしていくとよいと思う。</li> <li>・どの子をよく観察しても、楽しそうにしている場面が多いと思う。「この子たちと過ごす幸せを感じる」という前任の言葉が実感としてわかる。</li> </ul>	○安全に学校生活が送れているのは、とてもありがたいことだと思う。	
(15) その他	30 幼児児童生徒の満足度	・楽しく学校生活を送っている児童の割合を90%以上にする。	B+	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちは、どんな時が楽しい時か考えたり、子どもたちの様子を見たりして、教師が気付けるよう心掛ける。</li> <li>・「学校が楽しい」となるように子どもの話は目をみて聞く。</li> <li>・小規模校ながら、不登校児もいることをしっかりと受け止めて、児童一人一人に目を向けて北小の特徴のある活動を仕掛けていくように、もっともっとしていくとよいと思う。</li> <li>・どの子をよく観察しても、楽しそうにしている場面が多いと思う。「この子たちと過ごす幸せを感じる」という前任の言葉が実感としてわかる。</li> </ul>	○学校は楽しいと感じている子はほとんどであることは、さすがというところである。ただ「先生に何でも相談できる」ことに学年により差があったことは残念だ。子どもや保護者との信頼関係が戻ってほしいと思う。	A
	31 保護者の満足度	・我が子は楽しく学校生活を送っていると答える保護者の割合を80%以上にする。	B+	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校ながら、不登校児もいることをしっかりと受け止めて、児童一人一人に目を向けて北小の特徴のある活動を仕掛けていくように、もっともっとしていくとよいと思う。</li> <li>・どの子をよく観察しても、楽しそうにしている場面が多いと思う。「この子たちと過ごす幸せを感じる」という前任の言葉が実感としてわかる。</li> </ul>	○よい雰囲気を感じる。	